

立候補にあたっての決意

この度、次に行われる代表選挙に出馬の決意を固めました。その決意の一端を申し上げます。

まずもって、先の大震災において被災された皆さんに心よりお見舞いを申し上げ、亡くなられた皆様に衷心よりお悔やみ申し上げます。今なお多くの行方不明の皆様、不便な避難所暮らしや仮設住宅住まいを余儀なくなされている皆様がいらっしゃることは、慙愧に耐えない気持ちでいっぱいであります。

私は震災発災当初から今日に至るまで、福島第一原子力発電所の担当大臣であります。国民の皆さんから、政府の対応に必ずしもご納得いただけていないことは十分承知いたしております。

原発事故発災当初は、正に修羅場でありました。そしていろいろな制度面での不備も痛感いたしました。

原発事故の一連の経緯については、私自身、政府の対応について、内心忸怩たる想いがあることも事実であります。原発事故の被害者の皆さんには申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかしその上で、修羅場をくぐった私にしか分からないこと、私ならできることがある、そしてそれをこの国の最高責任者として実行したい、福島県、東北地方の皆様はもとより、放射性物質の影響に不安をおぼえていらっしゃるお子さんをお持ちの親御さんをはじめとする全国民の皆様に一刻も早く安心・安全をお感じいただけるようにしたい、その想いで、不肖の身でありながら、立候補を決意いたしました。

経済、財政、外交など日本を取り巻く環境と政策課題は一刻の猶予もなく政治に決断を迫っております。特に震災に加えて、現下の急激な円高や産業の空洞化をはじめ、日本経済は危機的な状況にあります。被災地を支え、復興のためにも、わが国は活力を取り戻さねばなりません。

私たちの日本は、必ず復興を成し遂げます。そのためにも衆知を集めなければなりません。民主党はもちろんのこと、政治家と官僚、与党と野党、在野の皆さんに至るまで日本国のもつ力を総動員し、戦後営々と築き上げてきた国富を活用して、日本を生まれ変わらせたい。私はただただその中心になりたいのです。

私たちが立ち返らなければならない原点があります。それは2年前の8月31日に国民の皆さんとお約束をしたマニフェスト「国民の生活が第一」の姿勢です。

政権交代に掲げた理念・哲学を大切にしながら、政治と民主党に失われた信頼を取り戻し、誰もが安心を感じられる日本、一生涯生きがいを持って暮らせる日本、子供達が自分の夢にチャレンジできる日本を再構築するべく、身命を賭してまいります。

皆様のご理解とご支持を心よりお願い申し上げます。